

まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第6回（平成17年度第5回）かごしままちづくり会議
開催日時	平成18年2月24日（金）15：00～16：15
開催場所	郡山支所3階会議室
出席者 （委員） （市職員）	委員12名、市職員5名 宮廻会長、津曲副会長、西園委員、萩原委員、今別府委員、四元委員、岩元委員、中迎委員、永山委員、野口委員、奈良迫委員、新地委員 宇治野企画部参事、中園企画調整課主幹、その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部企画調整課
会次第	1 開会 2 報告 （1）第5回（平成17年度第4回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について （2）第5回（平成17年度第3回）地域まちづくり会議における意見等の検討状況について（全市的事項） （3）第6回（平成17年度第4回）地域まちづくり会議等について 3 協議 （1）かごしままちづくり会議のとりまとめについて 4 その他 5 閉会
会議の概要	1 開会 2 報告 （1）第5回（平成17年度第4回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について 事務局から、第5回（平成17年度第4回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について説明 （2）第5回（平成17年度第3回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） 事務局から、第5回（平成17年度第3回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項）説明 （3）第6回（平成17年度第4回）地域まちづくり会議等について 事務局から、第6回（平成17年度第4回）地域まちづくり会議等について説明 3 協議 （1）鹿児島まちづくり会議のとりまとめについて 会長から、とりまとめのための協議経過報告書案について説明。

事務局から各地域まちづくり会議の状況及び欠席委員の意向について補足説明

委員から、街並みや景観を保護・育成していくまちづくりについての文言を入れて欲しいとの発言あり。

会長から、どのような形で掲載できるか検討したいとの発言あり。

委員から、「特色ある農業の振興」について、具体的に、生産面の工夫という文言を加えられないかとの発言あり。

副会長から、農業の部分は、生産面なども含め、総合的な産業であるという位置づけが大事であると考えたので、「農業は本市の重要かつ総合的」という文書にしたとの発言あり。

会長から、鹿児島市の基幹産業はいうまでもなく第三次産業だが、鹿児島市という地域の自立を考えると、第一次、第二次、第三次のバランスがとれていなければならない。これまでの鹿児島市の弱みを旧5町の産業特性によって補完していく必要がある。農業については、純生産や就業構造では大きな比重ではないが、実質的に重要な産業であり、生産から販売まで一貫してやっていくもので、総合的という位置づけで今後、戦略や戦術を考えていくことになるとの発言あり。

委員から、旧5町の基幹産業は農業であり、大々的に新たな視点で農業に取り組んでもらうという意味で、「特色ある農業の振興」が掲載されて非常によかったとの発言あり。

委員から、「市営住宅建設等による定住促進、地域活性化」について、定住促進や地域活性化が進み、人が定着することによって市営住宅が必要になってくるという流れであり、まずは地場産業の振興や地域の活性化が先にくべきではないかとの発言あり。

会長から、地域まちづくり会議での意見としては、旧5町地域に雇用の場がなくても中心部や隣接地に通勤するという考え方もあるのではないかとの発言あり。

委員から、定住促進が先か、住宅が先かというのは鶏と卵だと思う。現実問題として若い人の多くが市の中心部に動いており、人口は減っているのに、市営住宅の建設をしてほしいというのが現状であるとの発言あり。

副会長から、地域活性化は核であり、その後に定住促進がついてくるものであるが、地域の確たる産業をなかなか充実できない場合に、地域への定住化を図るために市営住宅という公共セクターによる安価な住宅を供給していくということも大事ではないかということ、この会議のテーマとして織り込んでほしいという意味は感じるとの発言あり。

副会長から、市営住宅だけが定住促進ではないが、5地域の思いを投影するのがかごしままちづくり会議であるとするならば、何らかの形でお受けするのは大事なことで、地域活性化だけで定住が促進できないという現状もあるのでメッセージとして掲載することもよいのではとの発言あり。

会長から、その地域で雇用されなくても、隣接地域で雇用の場が確保できれば住んでもらうだけでも住んでもらう、あるいは、今までいる人が外に出て行かないように、できるだけ公的な住宅で定住を促進するような手立てを講じてほしいという考えもあるとの発言あり。

委員から、地域まちづくり会議でも要望が出ており、市営住宅建設の意見はやはり入れたほうがいい。市営住宅を建設することにより、定住促進や地域活性化につながるとの発言あり。

委員から、定住促進、地域活性化というのは言葉では簡単だが、具体的にどうするかとなると、他に行かない施設の建設が最優先だという強い要望が地域まちづくり会議ではあるとの発言あり。

会長から、以上の協議を踏まえ、市営住宅の建設に係る記載については、原案通りとすることで確認を行ったところ、了承される。

委員から、高齢者や子育て世代の生活支援に関する問題についてほとんど触れていないが、報告書に入れる必要がないかとの発言あり。

委員から、教育・福祉関係について出てきていないので追加できるのであればお願いしたいとの発言あり。

委員から、教育や福祉と同様に、魅力ある中心市街地の活性化と良好な商店街の育成などについても、これまで議論してこなかったとの発言あり。

委員から、旧鹿児島市の人にとっては、合併により美しい郊外ができた感じを受けているのではないか。「桜島の一体的な整備をはじめ観光振興」とあるが、特に「桜島の」と言ってしまうと、他の地域の観光資源が埋もれてしまうかもしれない。各地域の具体的な資源を示した方がよいのではないかととの発言あり。

会長から、旧5町の観光資源について具体的に掲載するようにしたいとの発言あり。

委員から、かごしままちづくり会議の設置目的は、合併後の本市のまちづくりに関することであり、合併する、しないに関わらず言えることについては、この会の目的とは馴染まない面もあるのではないか。また、本日は、協議経過報告書案ということで協議している。かごしままちづくり会議はこれで終わりではなく、福祉や中心市街地などの関係については今後、協議を行っていくなど、特に急を要するものでなければそのような取り扱いとすることも考えられるのではないかととの発言あり。

会長から、この報告書はこれまでの議論のまとめであり、福祉や中心市街地の関係など、今後議論していくことで対応できるのではないかととの発言あり。

委員から、福祉や教育をテーマに掲げ今後議論していけばよいとの発言あり。

会長から、「報告書の修正については、観光振興の項目を表題も含め修正を行うことで、最終的な修正は正副会長に一任いただくこと。」「福祉、中心

	<p>市街地の関係などについては、今後、テーマに掲げて協議する。」という取扱いとすることで確認を行ったところ了承される。</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉 会</p>
--	--